

Q：児童に概数の意味を理解させるには、どのような点に配慮する必要がありますのか教えてください。【4年】

**A：概数を用いると大きさがとらえやすくなる、計算の処理が簡単になる、計算結果の見通しを立てやすくするなど、良さに気付くことができるような配慮をすることで、目的に応じて概数を用いる姿勢を身につけさせてください。**

児童は、日常生活では「およそ6000人」「約10000円」などとおよその数を使っているものの、算数の学習では、数についての意識として正確さが重要であると考えられる傾向があります。しかし、国の人口や面積などのような大きな数で、細かい数値そのものが必要でなく、大まかに数が捉えられればよいときに概数を用いることを認識させましょう。また、桁数の多い数や複雑な計算をするときに、計算ミスを防ぐ意味でも、概数を使って結果を見通しておくなどのメリットを理解する必要があります。

＜概数を用いる場合＞

- ①目的に応じて数を丸め必要な位にとどめた値を用いる場合
  - ②棒グラフを用いて、都市の人口を比較するようなどき、棒の長さで人口のおよその大きさを表す場合
  - ③詳しい値をつきとめることが難しいため、およその値を用いる場合
  - ④詳しい値を求めても意味がない場合
- ※概数を用いるときは、その目的を明確にして、用い方を理解できるようにすることが大切です。

＜概数の求め方＞

概数をつくる場合に、切り捨て（少なく考えた方がよい）、切り上げ（多く考えた方がよい）、四捨五入（ある程度正確に考えた方がよい）などの方法があります。その中で、最も広く用いられるものは四捨五入です。

児童にとって概数を求める上で「上から○けたの概数にしましょう」「○の位までの概数にしましょう」など、いろいろな言い方があって、どの位を四捨五入や切り捨て（切り上げ）するのか分かりにくい面がありますので、言葉の意味をきちんと押さえることが必要です。

＜概数の活用例 ー見積もりー＞

日常生活の場面においては、和・差・積・商を概数で見積もると便利になることが多いです。

例えば、240円、280円、350円の3つの品物を1000円で買えるかどうか判断するとき、大きめの概数の、300円、300円、400円とすると合計金額は1000円となるので、実際は1000円で買えると判断するようにします。